

# THE REPORT

国内レポート 第17回若い歯科医師のための  
オーラルフィジシャン育成セミナー

## 次代の若手歯科医師に向けた 国際的に通用する診療室づくり

菅野 宏

富山県開業 となみ野歯科診療所  
連絡先：〒939-1345 富山県砺波市林837



3月16日(土)、17日(日)の2日間にわたり、日吉歯科診療所(山形県酒田市)にて“若い歯科医師のためのオーラルフィジシャン育成セミナー”が開催された。

本セミナーは、これからの歯科界を担う勤務医や学生などを対象に、同地でご開業の熊谷崇先生が主宰して行われており、今期で17回目を数える。今回は全国から約50名の参加があり、満員の研修会場は終始、若者と講師陣の熱気に満ちあふれた状態だった。

熊谷崇先生、日吉歯科診療所の勤務医ならびにオーラルフィジシャンセミナーの受講経験者ら、計8名の講師より、次代の若者たちに向けて国際的に通用する診療室づくりに対する熱いメッセージが語られた。

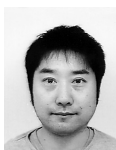
主な内容としては、歯科医療の本質・哲学、先進国と日本の比較、学ぶことの意味・学び方、開業医たちの実例、これからの歯科医療における専門医の役割などであった。多くの参加者にとって、これまでそれぞれが思い描いていた歯科に対するイ

メージを、よい意味で大きく転換する機会になったことと思われる。今回の参加者によるレポートを以下に示し、本会の報告とする。

本セミナーは今後も定期的に開催を予定しているため、これからの若者たちにはぜひ参加してほしい。なお、20期は2014年3月15日(土)、16日(日)、21期は2014年8月23日(土)、24日(日)で、すでに参加募集を開始している。詳細については日吉歯科診療所ホームページを参照いただきたい。

### Reporter's voice 1

#### 歯科医師としての羅針盤となった2日間



中尾 祐  
(福岡県勤務・大賀歯科医院)

今回セミナーを受講するまでは、恥ずかしながら、何となく一般歯科に勤務した後に父親の歯科医院を継承するという安直な目標を立てていた。また、技術さえ向上すれば、患者に対しよりよいものを提供

できるものだと思っていた。セミナーへ参加する動機も歯科医師の妻(右ページ・森中)から薦められ、受動的に受講する始末だった。しかし、実際セミナーを受けてみて、そもそも治療に至った原因は何かという根本的な点に目がいていないことに気づくことができた。また、万人が好んで歯科治療を受けたいわけではなく、自分の歯で食べ、健康のまま天寿を全うしたいのは当然のことで、それを実現するのが歯科医師としての使命であり、醍醐味ではなからうかと感じずにはいられなかった。患者の健康を守り育てるためには、歯科医師は継続した資料採得と徹底した説明を行い、患者自身に歯の価値を理解してもらう必要がある。そしてリスクマネジメントを行いながら、患者と二人三脚で健康を作りあげることが大切だ。もし治療が必要となれば Evidence Based Dentistry にて裏打ちされたワールドスタンダードの治療を、さらに進んだ治療となれば専門医が最先端かつ最高の治療を行う。私にとって歯科医師としての羅針盤となると同時に、歯科医師の価値を改めて確認することができ、たいへん意義深いセミナーであった。

## Reporter's voice 2

## 目指すべき歯科医師像が明確に



荒川 勇喜

(長野県勤務・あるが歯科クリニック)

現在、あるが歯科クリニックでは、より長期的に良好な口腔内環境が保てるように、一口腔単位の治療、予防に努めている。しかしながら、現行の国民皆保険制度の弊害か、真の予防医療ができていないのかなという自問があった。今回、セミナーを受講し、現在の診療に欠けている点は、個々の患者によって異なるリスクの評価、改善、管理だということに気づかされた。生涯、自分の歯で食べさせたいという哲学のもと行われるリスクアセスメントとメンテナンス(バイオフィルムの破壊と除去)こそが、発症前の治療、すなわち真の予防医療であることを学んだ。また、日吉歯科診療所に勤務する歯科医師は、質の高い治療を提供するため Evidence Based Dentistry を日常的に実践しており、診療で疑問点があれば、それに関する論文を検索し、最新の医学的根拠を調べ、実践し、フィードバックを行っているという。これは、歯科医師としての真の姿であるが、日本の多くの歯科医師に欠けている点ではないだろうか。今回参加して、オーラルフィジシャンの重要性とともに、海外研修の必要性を痛感した。今後はリスクアセスメントとメンテナンスを基盤とした、質の高い一般治療と専門医による高度な治療が提供できる、二次医療機関的なクリニックづくりが望まれる。



「明るく・やさしく・親切に」をモットーに、スタッフ一丸となって日々診療に励んでいる。

## Reporter's voice 3

## 「予防診療」とは単品の医療技術ではない



森中 和子

(福岡県勤務・やまだホワイトクリニック 歯科)

受講のきっかけは些細なことだった。私は矯正医としての10数年、治療前に患者の口腔内写真等を採得分析し、口腔内の現状を説明することが当然だと思っていた。だが一般開業医は「時間なし」「患者が拒否」「不採算」の理由で初診時に撮影することは稀だった。そんなとき、米国歯周病・インプラント専門医を取得した築山鉄平先生(福岡県開業)の医院を見学させていただく機会に恵まれた。築山先生から「日本では何でもできる歯科医師がもてはやされるが、専門医、一般開業医、歯科衛生士がうまく連携するチーム医療こそが真の患者利益になる」と学んだ。また、口腔内写真に始まり、治療の再評価に必要なデータの採得、徹底したリスクアセスメントとメンテナンスが実践されているのを体験し、これまでの疑問を解くカギになるのではないかと思います。今回セミナーに申し込んだ。熊谷崇先生のお名前は「予防」と誰しもが思い浮かべるが、予防は日本では安直に「単品の医療技術」とみなす教育が根底にある。セミナーに参加して「従来どおりの診療にフッ素塗布やPMTCを加え、それを患者に請求するやり方では根本的な問題は何も変わらない」という意図が理解できた。私にとってあるべき歯科医療の姿を確信できた貴重な2日間になった。



熊谷先生(中央)を囲んで。写真左はセミナーにも参加した夫の中尾。